

二条城の造営

<http://www.kyoto-arc.or.jp>
(財) 京都市埋蔵文化財研究所・京都市考古資料館



本丸の調査（北から）本丸御殿遠侍の礎石列。



桜の園の調査（南から）北大手門の南側で路面が見つかった。

はじめに 京都を代表する観光地の一つである二条城は、1994年に世界文化遺産に登録され、連日、外堀が折れ曲がっている部分は慶長期の西堀のなごりです。その後、後水尾天皇の行幸に備えて、徳川秀忠・家光により寛永元年（1624）から大規模な改築が行なわれます。現在の本丸御殿は明治時代に京都

一重の方形で、城内北西部に天守が立てられていました。現在、外堀が折れ曲がっている部分は慶長期の西堀のなごりです。その後、後水尾天皇の行幸に備えて、徳川秀忠・家光により寛永元年（1624）から大規模な改築が行なわれます。現在の本丸御殿は明治時代に京都



二条城の調査位置



二の丸の調査（南東から）



こんな所…（南東から）

東大手門内側・世界遺産の案内板前の調査区。

御苑から移築されたものですが、調査では天明の大火（1788）で焼失した寛永期の本丸御殿の礎石列が見つかりました。中には1m近い大きさの石材があり、火災の熱で表面が焦げたものもあります。

本丸御殿を描いた絵図と重ね合わせたところ、礎石列は遠侍や台所の一部であることが判明しました。

二の丸の調査 慶長期の確実な遺構には、現在の御侍北側で見つかった大型の竈があり、当時はここに台所があった可能性があります。慶長期の遺構の上には寛永期の分厚い整地が行なわれています。二の丸北部では東西方向に

延びる暗渠が見つかりました。板を箱形に組んで鉄釘で留めた木樋を据え、周囲や上部を粘土で覆つて密封しています。西に向けてわずかに傾斜しており、二の丸庭園への導水施設と考えています。

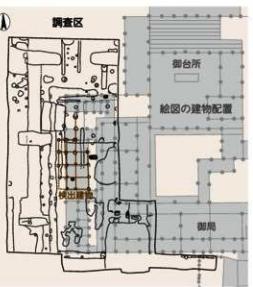
緑の園の調査 北大手門から延びる城内通路で慶長期・寛永期の路面が見つかりました。上面は石や砂を敷いて表面を堅く叩き締めて舗装しています。これにより北大手門が慶長期より一直して同じ位置にあることが証明できます。

桜の園の調査 桜の園周辺は行幸御殿があったと推定されている場所です。行幸御殿は後水尾天皇・

（山本雅和）



桜の園の調査（北西から）写真奥に建物の礎石を見ることができる。



寛永期の絵図に検出遺構を重ねたもの